

令和8年度 通信教育実施計画

松陰高等学校（本校／各学習センター）

教科	科	単位数	履修上の留意点	
家庭科	家庭総合	4		
指導目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。 (2)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて理論的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 (3)様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。			
	教科書	副教材等	添削指導	面接指導
	東京書籍701家庭総合		12回	8単位時間
	多様なメディアを利用した学習による 面接指導時間数の減免実施の有無	☐ 実施している ☒ 実施していない	多様なメディアを利用した学習による減免 後の面接指導時間数	該当なし
添削指導（レポート）				
回	学習内容		対応する 面接指導の回	提出期限
1	○第1章 生涯を見通す ・生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解する。 ・生活課題に対して意思決定を行う重要性を理解し、歩みたい人生の目標を描く。		1	5月13日
2	○第2章 人生をつくる ・生涯を見通して自分のライフスタイルを考えることができるように、さまざまな生き方について理解する。 ・社会制度としての家族や家族と法律を理解する。		1	5月13日
3	○第3章 子どもと共に育つ 1～4 ・命に対する責任や、社会の一員として次世代をはぐくむ責任を持つために、性と生殖に関する健康について理解する。 ・子どもが健康・快適・安全に育つ環境を整えられるようになるために、子どもの生活習慣や衣食住について理解する。		2	6月6日
4	○第3章 子どもと共に育つ 5 第4章 超高齢社会を共に生きる ・社会全体で子育てを支援していくために、現代の子育て環境の変化や課題について理解する。 ・超高齢社会の背景を理解する。 ・高齢者の自立を支えるために私たちにできる適切な支援の方法や関わり方を考える。		2	6月6日
5	○第5章 共に生き、共に支える ・誰もが生涯を通して自分の力を生かし、必要に応じて援助を得ながら安心して暮らせる社会に向けて、家族・家庭生活を支える福祉について理解する。 ・共に支え合う社会の実現に向けて、国・地方公共団体の制度などの支援体制、支え合いの構造について理解する。		3	7月4日
6	○第6章 食生活をつくる 1-3 ・よりよい食習慣を身につけ、生涯を健康に過ごすために、食生活の課題や食事の意義、食生活を取り巻く環境の変化などを理解する。 ・自分や家族が健康に過ごす食生活に役立てるために、栄養素の種類と機能や食品の栄養的特質について、科学的な理解を深める。 ・安全で衛生的な食生活を営むために食品の選び方、保存や加工の方法、食中毒や食物アレルギー、安全を確保するための仕組みに関する知識を身につける。		4	8月8日
7	○第6章 食生活をつくる 4-7 ・自分と家族の食生活を計画・管理できるようになるために、各ライフステージの食生活の特徴や課題を理解し、「健康によい、栄養バランスのよい食事」とはどのようなものかを理解する。 ・郷土食や行事食などのよいところを継承・創造するために、日本の食文化の特徴を理解する。 ・自分や家族の食生活を持続可能にすることができるようになるために、安全・環境・健康など食生活に関わる情報を適切に判断し、広い視野で食生活について考える。		5	10月21日
8	○第7章 衣生活をつくる1-2 ・用途に合った着装を実践できる力を身につけるために、社会生活を営むうえでの被服の役割を理解する。 ・健康・快適・安全な生活を送るために被服に施されている工夫について理解する。 ・被服表示を参考にし、目的に応じた被服入手と着装について考えられる力を身につけるために、被服の材料や性能、加工について科学的に理解する。		6	10月21日
9	○第7章 衣生活をつくる3-6 ・手持ちの被服を長期間にわたり着用することができるよう、管理や手入れの工夫について理解する。 ・環境に配慮した衣生活について考え、実践できる力を身につけるために、被服の洗濯や保管方法を科学的に理解する。 ・次世代に引き継げる衣生活の在り方を考えるために、資源の消費の観点で自分の衣生活を見直す。		6	11月11日
10	○第8章 住生活をつくる ・生涯を見通した住生活について考え、将来に向けて自立するために、私たちの毎日の生活を支える生活拠点となる住居の機能やライフステージごとの住要求を理解する。 ・自らの住生活に生かすことができるよう、防災などに関する環境性能について理解を深め、快適かつ健康、安全な生活を行う場となる住居の条件を理解する。		7	11月11日
11	○第9章 経済生活を営む ・販売方法や支払い方法が多様化する中で責任ある消費行動ができるよう、契約の重要性について理解する。 ・消費者には権利と責任があることを理解する。 ・生涯を通して家計をマネジメントする力をつけるため、家計の構造やリスクを踏まえた金融資産のマネジメントについて理解する。		8	12月5日
12	○第10章 持続可能な生活を営む 第11章 これからの生活を創造する ・持続可能なライフスタイルの実現に向けて、身近な生活と環境との関わりについて理解する。 ・人生の目標を達成し、自分らしい生活が実現できるよう、各ライフステージの課題や生活資源、リスク管理について振り返りながら生活設計ができるようになる。		8	12月5日
面接指導（スクーリング）				
回	単位時間	学習内容	実施場所	実施日
1		発達段階や家族と法律について学習する。	各学習センター	5月
2		子どもの発達段階について学習する。	各学習センター	6月
3		国・地方公共団体の制度など福祉について学習する。	各学習センター	7月
4		(調理実習) 調理を通して食への関心や思考力・実践力を育む。	各学習センター	8月
5		(調理実習) 調理を通して食への関心や思考力・実践力を育む。	各学習センター	9月
6		(被服実習) 布製品を製作し、縫製技術や衣服に関する知識を身に付ける。	各学習センター	10月
7		生涯を見通した住生活について学習する。	各学習センター	11月
8		消費者の権利や家計、持続可能なライフスタイルの実現に向けて学習する。	各学習センター	12月
多様なメディアを利用した学習 計画段階では実施予定なし				
試験				
回数	試験範囲		実施場所	実施日
1	レポート1～6		各学習センター	9月
2	レポート7～12		各学習センター	2月
学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定に当たっての基準				
添削指導、面接指導、試験の結果を総合的に評価する。 所定の添削課題の提出、面接指導の受講、試験の受験を満たし、学習成果が認められる場合に単位を認定する。				
その他				
各学習センターでは、本校の通信教育実施計画及び指示に従い実施する。施設状況や生徒の状況等に応じて日程・実施方法を調整する場合も、本校の承認又は指示のもと、指導内容・評価・単位認定基準に変更が生じない範囲で対応する。				